

リニア山口トンネルこのまま掘って本当に大丈夫!?

今年4月8日に「鉄道建設・運輸施設整備支援機構」(以下、鉄道・運輸機構)は、「岐阜県中津川市山口で掘削が進むリニア中央新幹線中央アルプストンネル山口工区の作業トンネル(斜坑)の地上部で陥没が確認された」(以下、山口トンネル)と発表した。

今年5月28日、鉄道・運輸機構は「山口トンネルの地上部土砂崩落の推定原因と対策について」を発表した。



トンネル工事により土砂が崩落した竹林、鉄道・運輸機構提供

「リニア新幹線を考える岐阜県民ネットワーク」(以下、県民ネット)は、この発表を受け、地質学者やトンネルの技術者などに意見を求めたり、県議会議員や市議会議員を通じて自治体の見解を求める活動を展開しました。

県民ネットは、6月29日と9月22日に「山口トンネル崩落事故を考える交流会」を開催し地域住民の方々と学びました。

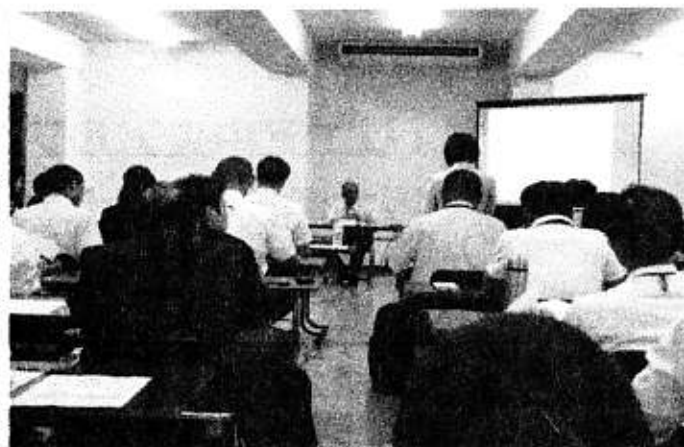


9月22日山口トンネル崩落事故を考える交流会

「岐阜県環境影響評価審査会 地盤委員会」は7月5日と8月20日に「山口トンネル崩落事故」について審査会を開催しました。

9月30日に「岐阜県環境影響評価審査会」は意見書を県知事に答申しました。

10月7日に「県知事意見書」が出されました。



8月20日岐阜県環境影響評価審査会地盤委員会

<県知事意見書の一部抜粋>

今後の工事を円滑に進めるためには、JR東海として、地域住民のみならず社会に対し、今回の陥没の原因と対応策について、真摯な説明を行うことが必要不可欠となる。

そのため、JR東海として、今回の陥没の原因とともに、復旧工事、斜坑、本坑の地盤沈下に係る今後の環境保全措置について、以下の事項に関し(中略)報告書を作成すること。

- ・陥没事故を踏まえた改善策
- ・不安定な地山と判断する場合のメルクマール
- ・施工中に不安定な地山と判断した場合の具体的な対策

また、当該報告書を公表し、地域住民に説明した上で、その状況について、岐阜県及び関係市に報告すること。

岐阜県は、当該報告書の内容及びその説明状況について審査会に確認する。

JR東海は、上記の一連の手続きが終了するまで、工区における復旧工事、斜坑及び本坑の掘削工事の再開は、行うべきでないこと。

- ◎ 岐阜県内には 48.6 キロものトンネル区間が計画されており 20m以下の浅い箇所もあります。
- ◎ 松島さんと坂本さんの話を聞いて、トンネルを掘る難しさと怖さを学びませんか！



【松島信幸氏の紹介】

日本地質学会名誉会員の松島氏は長野県内で教師を務められる傍ら、南アルプスを長年にわたり調査活動を展開され、それまで謎であった地層を解明されました。活動は南アルプスに限らず、阿寺断層調査活動にも参加されています。また、数々の地質図なども発表されています。

松島氏は活断層である阿寺断層にトンネルを掘ることは無謀な行為であると断言されています。地震が起これば、どのような強固なトンネルでも、ひとたまりもなく崩壊するであろうと警鐘を鳴らされています。

9月22日の「交流会」でもエネルギッシュな公演をしていただきました。



【坂本満氏の紹介】

技術士・応用理学部門の肩書を持つ坂本氏は南木曾町議会議員を務められており、6月29日と9月22日に中央アルプストンネル(山口工区)で生じたトンネル陥没について講演をしていただいています。

このトンネルは県境を越えて長野県側まで掘り進み、南木曾町の水道水源の真下をトンネルが通過する計画で、このため工事へのJR東海等の対応については長野県側でも心配されています。

坂本氏は7月5日と8月20日の「岐阜県環境影響評価審査会・地盤委員会」を傍聴し、山口工区斜坑トンネル崩落の原因を検討されています。

今回は環境影響審査会からの「意見書」提出を踏まえ、今後留意する点などが語られる予定です。

「リニア山口トンネル崩落事故を検証する講演会」

日時：11月24日(日) 13時30分～16時30分

会場：苗木交流センター ホール (中津川市苗木)

電話：0573-66-6606

講師：松島信幸氏(日本地質学会名誉会員)

「リニア中央アルプストンネルと阿寺断層」

講師：坂本満氏(技術士・応用理学部門)

「岐阜県環境審査会・意見書と」R東海の対策の検証」

主催：リニアを考える岐阜県民ネットワーク(代表：庄司善哉)

連絡先：原重雄(090-2688-4399)



苗木交流センター

